

令和6年度版 ニホンザル 被害対策マニュアル



狩猟普及委員会

①ニホンザルの生態について



- 日の出～日没までの間に活動しています。夜中はほとんど活動せず寝ています。
- 歳を重ねたメスたちが率いる母系社会の群れで行動しています。(成獣のメスと0歳～3歳程の若いサル)
オスは成長して3歳程になると、自分が育った群れから離れます。
⇒「はぐれザル」と呼ばれています。
- 雑食性です。虫や沢ガニ、新芽、花、野菜、果樹などを食べます。
- 視力は良いですが、「聴覚」、「嗅覚」は人とそれほど変わりません。
- その場で垂直に1m程跳ぶ脚力 + 2・3m程幅跳びする脚力があります。



ニホンザルの足跡

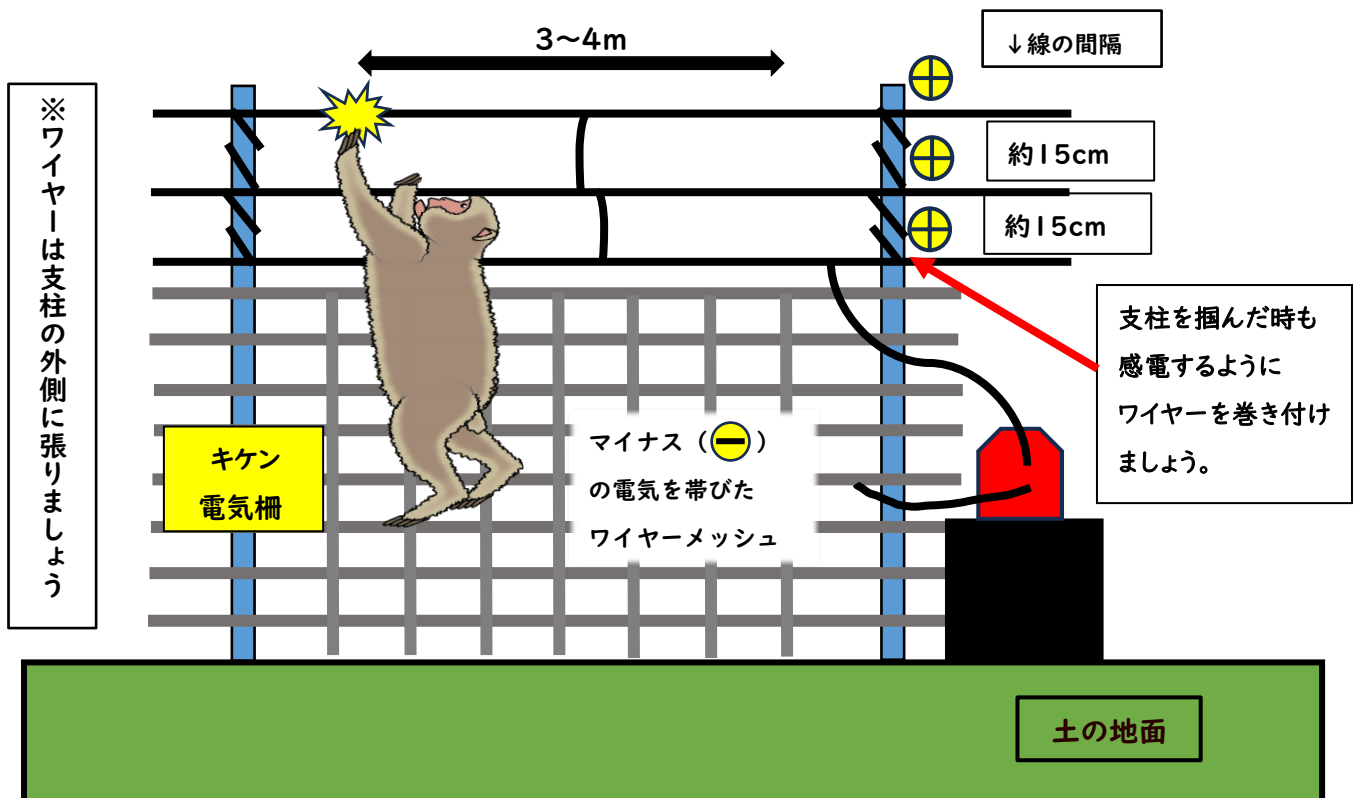


ニホンザルのフン



威嚇するニホンザル

②サルを想定した複合柵 (ワイヤーメッシュ+電気) のポイント (例)

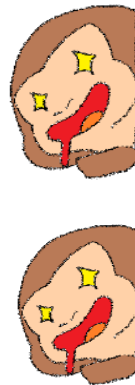


③サル用の電気柵設営で重要なこと



- 「電気ワイヤー+支柱」の電気柵を設営する際は、農地区画の角に使用する支柱は、若干太目でしっかりとした支柱（FRP製など）、中間に刺すものは弾力性がある支柱（グラスファイバー製など）がおススメです。
- サル用の防獣柵は「地面から130cm以上の高さ」が必要です。
- 電気柵本体の電源は「24時間、365日つけっぱなし」が基本です。
- 柵下の伸びた雑草などによる漏電を防ぐものとして“除草シートを敷く、除草剤を散布する、定期的な刈払いを行う”などの対策があります。
- 電気柵の電圧は4000V~6000Vを維持しましょう。
また定期的に電気柵の全段のワイヤーの電圧を専用計測機で確認しましょう。
- 外から柵内に向かって伸びている樹の枝などがあれば、枝からジャンプして柵内に入ってくる可能性があります。可能であれば柵内近くまで伸びている木の枝は切り落としましょう。
- 「メッシュ柵」や「トタン柵」などの物理柵だけでは、サルの侵入は防げません。
サル被害がある場合は、電気柵などの触れた時に痛みを伴う「心理柵」が有効です。
電気ワイヤーとワイヤーメッシュを併用する複合柵の場合、ワイヤーメッシュと1段目の電気ワイヤーの隙間から侵入されないよう注意して設営しましょう。

④餌場、隠れ場を無くす



ウッキッキー！！
こんなところにゴチソウが置いてあるぜ〜♪
人間の中にも優しい人がいるんだなあ★
山で食べ物を探す手間がなくなったな！
しばらくはこの辺りで生活しようぜ！

サルからは↑のように思われています

農作物を廃棄する場合は土を被せたり、コンポストへ入れたり、食べ物を「サルの視界」に入れないようにするだけでも効果があります。

※サルの嗅覚は人とさほど変わらない為、視界に入れなくても効果がありますが、イノシシやシカやクマなどの他の野生動物による被害も併発している地域では、隠すような対策だけでは不十分です。



茂みの中に潜むサルを人が道路側から目視することは困難ですが、茂みの中のサルからは道路側の人々は丸見えです。

**茂みの中=安全な場所
だとサル達は分かっています**



藪を刈り払い、見通しを良くすることで…



こんなにスッキリしていたら、ぼくらの隠れる場所が無いよ！

せっかく美味しそうな食べ物が近くにあるのに近づけない！！

⑤サルの餌場、隠れ場を無くす際のポイント

●農作物などの廃棄が出てしまった場合は、サルの視界に入らないよう工夫をしましょう。

(土を掘って埋める、コンポストに匂いを抑えるものと一緒に入れるなど)

●収穫する予定の無い放任果樹などは、**可能であれば伐採しましょう**。もしくは**実や枝を全て落とし、燃るべき方法で処理しましょう**。

※収穫予定のある果樹には、サルなどが樹に登りにくくなる**中型野生動物用の有刺鉄板**を樹に巻きつけるなどの対応策もあります。

●集落内の**茂みの中はサルにとっての安全地帯**です。定期的の下草や低木の刈り払いを行いましょう。

⑥サルの追い払いについて



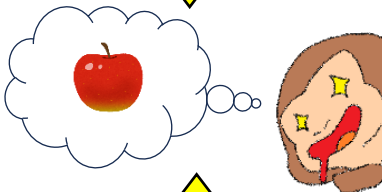
前述の①～⑤を参考に、農地の周囲に電気柵を張り、集落内の茂みや放任果樹を刈り払い・伐採し、農作物の廃棄処理を正しく行い、住民側ができる限りの被害対策を行うことができれば、サル被害は必ず減少します。それでもサルの群れが集落に居座る可能性もゼロではありません。

その最大の理由とは・・・



やめられない!

とまらない!



もうどうにも

止まらない!

「人が作る美味しく、栄養豊富な果物や野菜の味を知ってしまった」からです。

それほど人が食べている農作物などは

「魅力的な存在」なのです。

そのような場合は・・・

“集団で追い払い”

を行きましょう!



⑦サルの追い払いを行う前のマメ知識



- サルは人間の男性、女性、大人、高齢者、子どもの区別が付きません。
- また「人の顔」の判別もできるため、「この人は近づいても大丈夫♪」、「あの人は近よったらアブナイ奴だ!!」という判断も可能です。



では、どうすれば良いのか…?

「例のあの人」 = 「怖い存在」ではなく

「この集落の人達」 = 「怖い存在」とサルに学習させます。

サルを見つけたら、なるべく大勢の地域の住民が集まり
組織的かつ継続的に追い払いを行いましょ。サル達に

「この集落の人達怖いな～引っ越そうかな?」と学習させましょ。

個人的に考えているニホンザルの追い払いで手軽かつ、追い払い効果が一番高かった道具は「玩具の電動ハンドガン(18歳以上対象)」です。



◆電動ハンドガン(18歳以上対象)の良い点◆

- 軽量・コンパクトなので、作業中でもポシェットに入れておけば、持ち運びも楽ちんです。
- 火を使わないため、火傷や火事の心配がありません。
- 使い方が簡単で、初心者の方でもすぐに使うことができます。
- 土に還る環境に優しいバイオ BB 弾が使えます。
- 遠くにいるサルに対し、力を使わずに追い払いを行えます。
- BB 弾の飛距離は20m～30m。連射が可能なタイプもあります。
- バッテリーをフル充電すれば、200発～300発撃つことが可能です。
- BB 弾が当たるとそれなりに痛いです。

※電動ハンドガンを使う際の注意事項※

- ・BB 弾が目にあたると危険です。決して銃口を覗かないで下さい。
- ・撃つ前に必ず銃口の方向に人がいないか確認してから撃って下さい。
- ・使用しない場合は、必ず「安全状態」に切り替えましょ。



⑧サルの捕獲・調査のマメ知識

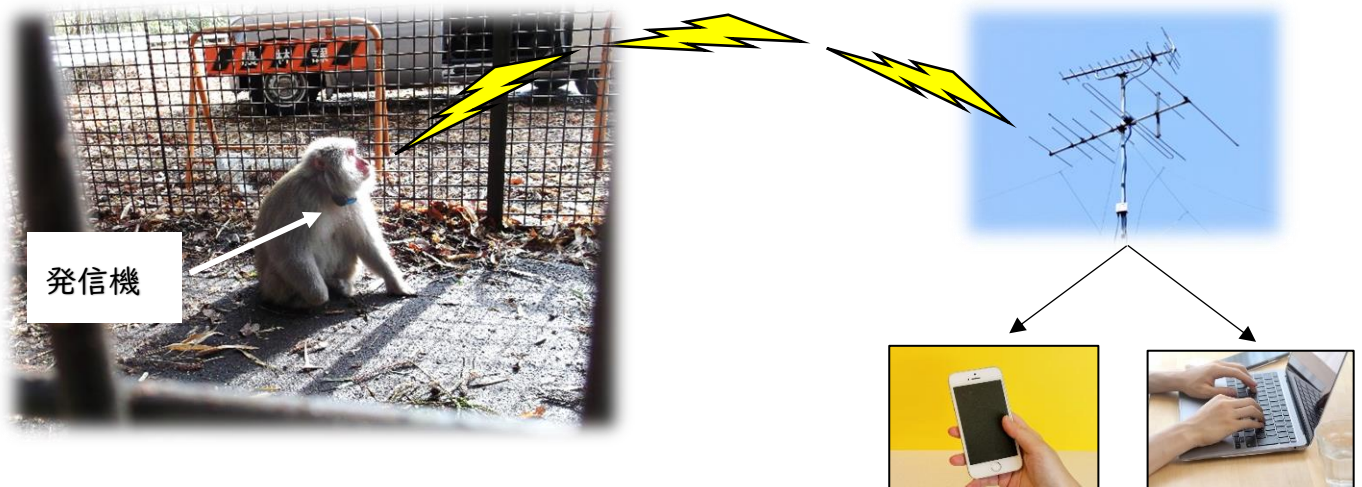


○世間ではボスザル=体が大きく強いオスというイメージが強いですが、野生のサルの群れは母系社会なので歳を重ねたメスたちが、群れを率いる役割を果たしています。

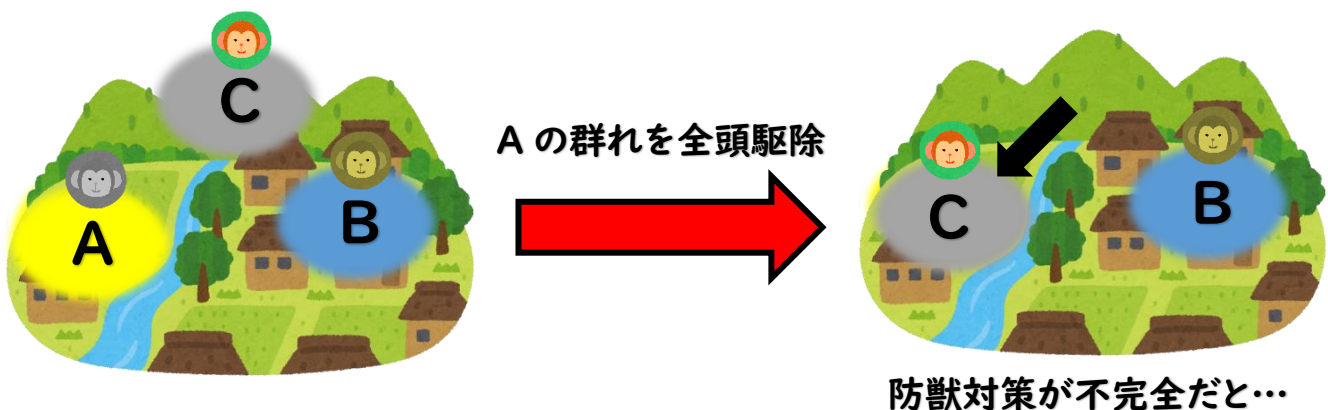
※動物園のような閉鎖された環境では、オスは成長しても常に集団に属しているため、そのような集団では、「体が大きく、力の強いサル」などがいわゆるボスザルとなります。

○無計画に成獣のメスザルを捕獲し、殺処分をしてしまうと、今まで群れを率いていた個体が群れから消えてしまう可能性があり、場合によっては群れが分裂し、サルによる被害地域を拡大させてしまうことがあります。
※100匹を超えるような大きな群れになってしまった場合も自然に分裂する場合があります。

○自治体によっては、成熟したメスザルを捕獲した場合は、殺処分せずに発信機付きの首輪を付け、群れの生息域調査や頭数調査に活用しています。一般の方でもパソコンやスマートフォンで群れの位置情報をアプリで確認することができるGPS機能のついたモデルもあります。



○下の図のAの地域のサルの群れを全頭駆除したとしても、集落の防獣対策が不完全な場合、隣接している地域の異なるサルの群れが移動してきて、その地域に住み着いてしまう可能性があります。



ニホンザル対策チェックシート

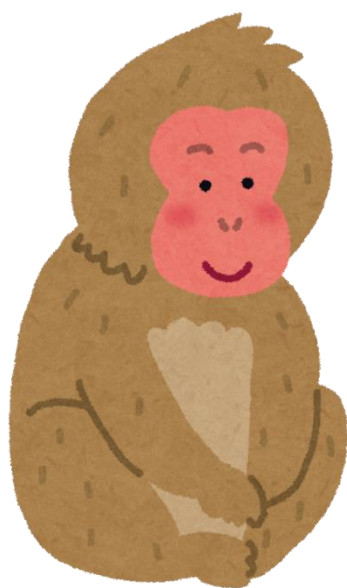
サルにあった高さ・ワイヤーの間隔等を考慮し、電気柵を設営しているか？

電気柵の電圧は適正な値になっているか？また定期的に確認しているか？

電気柵の近くにサルがジャンプして侵入してくるような樹の枝はないか？

無意識の餌付け（不適切な場所への作物廃棄、放任果樹、屋外にペットフードを放置など）を行っていないか？

集落がサルにとって過ごしやすい環境になっていないか？



**全てにチェックマークがついていれば、
安心して農作物を作れる環境と言っても
過言ではありません。**